

様式 3

会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	平成28年度第2回近江八幡市総合教育会議		
開催日時	平成28年7月29日（金） 10:00 ～ 11:30		
開催場所	市役所3階 市長応接室		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>出席者（敬称略）</p> <p>市 長 富士谷英正 教育長 日岡昇 教育長職務代理者 八耳哲也 教育委員会委員 高木敏弘 同 久家昌代 同 安倍映子</p> <p>◎職務により出席したもの</p> <p>総合政策部長 青木勝治 教育部長 江南仁一郎 教育部次長 野村正 教育総務課長 北村美栄子 学校教育課 課長補佐 森 茂次 政策推進課長 吉岡俊明 政策推進課 課長補佐 太田明文 政策推進課副主幹 夜野友昭</p> <p>◎傍聴者 1名</p>		
次回開催予定日	平成28年11月15日（火）14:30～		
問い合わせ先	所属名、担当者名 総合政策部政策推進課 夜野 電話番号 0748-36-5527 メールアドレス 010202@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 要約	要約 した 理由	内容を整理して、わかりやすく記録として残すため
内容	別紙のとおり		

担当課⇒総務課

司	会	1. 開会
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 傍聴の方へ遵守事項説明 ・ 会議時間の確認（1時間30分を目途に終了） ・ 今回から新教育委員として安倍委員が参加されたことを報告
市	長	2. あいさつ
		<p>あいさつ（概要は以下の通り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の会議で、定期的を開催することとなり、今回はその2回目として開催させていただいた。 ・ 前回は、学力・学習状況調査の結果の公表について議論し、公表を行うことまでは確認した。 ・ 公表は、子どもにとってプラスとなり、子どもや保護者にとって励みとなる必要があると確認した。 ・ 今回は、前回からの継続協議として、子どもや保護者にとって励みとなる公表をどのようにするべきかを検討したい。
司	会	会議資料確認 → 議事を交替 (議長の富士谷市長による議事進行)
市	長	3. 議題
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の議題確認 <ul style="list-style-type: none"> ①学力・学習状況調査について
事	務	①について説明
	局	<p>(資料1をもとに前回の会議内容確認、概要は以下の通り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力・学習状況調査の公表について意見交換を行い、公表することは前回の会議で確認したが、公表の内容については、教育委員会にて検討することとなっていた。 ・ 今回は、公表の内容について教育委員会から説明のうえ、意見交換を行いたい。 ・ 教育委員会事務局にて、資料2～4に基づき、公表の内容等について説明・提案していただく。
教育委員会事務局		資料2～4に基づき説明（概要は以下の通り）
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料4は昨年度当市において公表した内容である。 ・ 点数は掲載していないが、教育委員会として、また学校別の改善策を詳しく掲載したものである。 ・ 資料2が公表に係る今後の予定と、昨年度の結果の公表についての状況をまとめたものである。 ・ 国からの結果発表は8月に送付され、市ではプレス発表を8月25日に実施する予定である。 ・ 国は、都道府県別の平均正答数・平均正答率を数値で公表し、受験した児童、生徒へは個票を配布した。 ・ 市は、教師等学校関係者には学校別の平均正答数・平均正答率の数値を公表したが、市民には上記資料4を公表した。

- ・ 学校は、学校だより等で取組の成果や課題解決への今後の取組について説明し、児童、生徒に対して、個票を基に面談して学習方法についてアドバイスした。
- ・ 本年度の取組については、国からの発表前に県全体と取組として自校採点を実施し、概ねの傾向を把握している。
- ・ 自校採点の当市の結果としては、小学生は国語A・B共に県平均より高く、算数Bは低い。4科目合計では若干高い。
- ・ 中学校では、4科目いずれも県平均より低くなっている。
- ・ このような状況を踏まえて、資料3においては公表に対する文部科学省の考え方と、それを踏まえて公表する場合に考えられる公表方法、そして、公表のメリット・デメリットを検討したもの、そして平成26年度の公表状況を簡単にまとめたものである。
- ・ 文部科学省では、市町全体の結果を公表することは可能であり、学校と事前に相談したうえで学校の結果を公表することは可能であるとしている。
- ・ ただ、公表にあたっては、数値のみの公表ではなく、調査結果の分析結果をあわせて公表することや、一覧での公表や順位を付した公表などは行わないこと、そして個人の結果が特定されるおそれがある場合は公表しないなどの配慮を求めている。
- ・ それを踏まえ、市町全体の結果及び学校別の結果を示す場合の事例を示した。
- ・ 学校別に公表するメリットとしては、保護者や地域住民へ情報公開の義務や説明責任が果たせること、結果を基に、学校・家庭・地域が一体となった改善策が講じられることなどがあり、デメリットとしては、数値のみがクローズアップされ、数値のみで善悪が判断される可能性があること、小規模校においては母数が少ないため、学校としての全体像が見えてこないこと、数値が低かった場合に子どもたちへの心理的影響や、県立・私立学校への生徒の流出が懸念されるなどが考えられる。
- ・ 他の事例として、県内で学校別に数値を公表している自治体はなく、県外では平成26年度では全体の約2%であった。
- ・ 以上を踏まえて、教育委員会の総意として、学校関係者へ学校別の数値を公表し、一定の成果が出ていると判断できることから、昨年度と同様に、市民へ数値の公表は行わず、教科別の正答率の比較を行った上で、アンケート結果等を踏まえ、市単位及び学校別での課題解決に向けた重点的な取組を示す方向で、継続していきたい。
- ・ 数値は、その背景を知っている方に示すことは有効であるが、背景を知らない方にまで出してしまうとデメリットで示したことが大いに懸念され、子どもにとってマイナスに作用してしまうという結論となった。

教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市長のあいさつにもあったように、子どもにとって、また保護者によって励みになる必要がある。 ・ 昨年度公表した結果を踏まえて、教育に取り組んだ結果、小学校については一定の効果が出たと考えている。 ・ 中学生について、3年前に小学校で調査対象となっていた生徒であるが、前回の結果と比較すると、学校によって結果が分かれている。 ・ この要因については、中学校へ進学した際に成績が優秀であった子どもたち何名かが、県立・私立中学へ進学したことが考えられる。 ・ このことを踏まえて、教育委員会で議論した結果、昨年度と同様の方法で公表する方向となったことを報告する。
市 長	各委員からの意見を求める
委 員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度、学校ごとに数値を出したことは、思い切った取組であると思う。その結果は、成果として出ていると思う。 ・ また、この取組は文科省による「テスト」ではなく「調査」である。この結果から、学校・教育委員会・行政が何をすべきかについて検討するものであると思う。 ・ 以上のことから、教育委員会事務局の提案通り、昨年度の取組と同様の方法で公開すればよいと考える。
委 員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数値を出すことは、その意味を知っている方に出すことが効果的であり、そうした意味で数値は非常に重要である。昨年度から始めた取組は、もっと早くから実現すべきであった。 ・ ただ、数値は意味を知らない人に公表してしまうと、独り歩きしてしまい、全く意図しない方向に進んでしまう可能性が非常に高いため、公開する範囲は考慮すべきである。 ・ この取組が「調査」であるということを考えると、現在当市で実施した公開の手法を何回か継続して取り組むことで分析する必要があると思うので、私も昨年度と同様の方法で公開することが望ましいと考える。
委 員 C	<ul style="list-style-type: none"> ・ これまでの委員と同意見である。 ・ 子どもたちの中高一貫校へのニーズは非常に高くなっていると思う。そうしたところに、学校別の数値を公表することで、特定の中学校に対する評価が低くなり、悪い風評につながる可能性がある。 ・ 特に、保護者は調査により出されたコメントではなく数値だけで判断されてしまい、数値が悪いと学校への批判へつながってしまう可能性が高い。

委員 D	<ul style="list-style-type: none"> 先ほどの市長のあいさつでもあったが、子どもや保護者にとって励みになる公開の手法が必要であるということにたいへん共感した。まさにその通りである。 先日、市内中学校の評議会に出席した際に、学校長から調査は数学と国語だけであるが、このレベルアップだけでなく他教科に結び付ける必要があるとの発言があった。学校長がこのような思いであるということは、学校全体の指導改善につながっているように思う。 このようなことや先ほどの各委員のお話から、数値全てを公表することが励みになるものではないし、実践につながるものでもないと考える。 しかし、全ての学校が改善につながっていないと思うので、課題はあると思う。
市長	<p>以下の点を質問</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度の結果は自校採点の結果であるということだが、正式な発表は8月24日ということか。 なぜ、国の正式発表を待たずに、自校採点を行う必要があったのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 国の発表がその時期の予定であり、その結果が正式なものである。 自校採点を行った理由としては、8月の国の結果を待ってから分析を始めては、早期の指導に取り組むことが出来ないことが大きな要因である。 調査は4月18日19日に実施しており、自校採点を行うと、5月中旬に分析結果が出せるが、8月の正式公表を待つと9月になってしまう。概ね4カ月の差が生じることになり、なるべく早く結果を指導につなげていきたい意図がある。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 国の採点と自校採点に誤差は生じないのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 1問1答形式の問題（A問題）にはほとんど誤差はないが、記述式の問題（B問題）には誤差が生じることもある。 誤差が出ることも一定は必要で、採点した先生の基準と国の採点基準では何に差があったかを確認することもできる。 県では、全生徒の2割分を抽出して提出するよう求められているが、当市では、全生徒分の採点を行い報告している。このため県ではさらに誤差は出ると思われる。
市長	<ul style="list-style-type: none"> 国から正式な発表はどのように活用するのか。 昨年度は資料4のようにきっちりと出されている。

教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度と同様に、8月の正式結果をもとに本年度も分析して結果を出す。 ・ 点数や、読み書きの力や生活実態など分野別の分析を行い、生活習慣との相関性などを分析し、必要な施策について課題を分析したうえで学校に周知することになる。 ・ また、学校でも独自の分析を行い、すぐに指導改善に生かせるようにしている。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生は、自校採点および国からの結果をもとに2回分析することになる。 ・ 4カ月の差は出るが、正式なものだけを分析するのも1つの方法でないかを思ったので確認した。 ・ 国の結果をもとに行った分析結果はいつ出るのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会に結果が届くのが8月17日、各学校が届くのが8月18日になる予定であるので、学校内での分析は夏休み中にはできる予定である。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少し補足すると、調査は小学校6年生と中学校3年生に行っているものであるが、9月10月の分析結果を待っていると、それを指導に生かすことが難しくなる。 ・ このことから、自校採点の結果をもとにすこしでも早く分析して、学校別の対応を検討したい。 ・ 市長から話があったように2回分析することに関する意見はあると思う。 ・ 3年前まではほとんど対策が打てていなかったが、今回の取組により、全小中学校が一枚岩となった取組が出来ていると考えている。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話は少し変わるが、調査対象外の子どもたちの分析はどのように行っているのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県が全県的に「学び確認テスト」を行っている。 ・ その結果を各学校に返している。 ・ 一般には公表はしておらず、本年度は10月末に実施する予定である。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ その結果をこの会議で報告することはできないか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題ないと思うが検討する。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ この取組については初耳である。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度から実施しているので、あまり知られていないと思う。 ・ このことから昨年度は実施していない市町もある

市 長	<ul style="list-style-type: none"> 先生の負担が大きくなるのが懸念されるが、分析と集計とを分担して行うことも必要ではないか。 県が一括して行ってくれるのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 採点は各校にて行うことになる。このことから、県は、採点対象は2割でかまわないということを行っているが、当市では全員分採点する必要があると考えている。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 採点作業は先生でないと難しいか。マークシート方式等の採用はできないか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 昨今は読む力、書く力が求められているので記述式が主流であり、そうすると慣れた先生でないと難しい。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 先生のOBなどに依頼するのも一案かもしれない。 そうすることで負担は減るのではないか。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み前に行えば、2学期に備えることはできると思う。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 県教委の対応が遅いのはなぜか。早くできないのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 問題作成から取り掛かっているため時間がかかっているのではないかと推測する。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み前は教員採用試験があり、問題作成と重なっていることも要因でないかと思う。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> 問題作成は現場の先生の意見を聞きながらしているので、10月ごろになっているのかもしれない。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 実施されたときにはこの会議にて報告していただきたい。
委 員 B	<ul style="list-style-type: none"> 先生への事務負担軽減に配慮いただいていることについて感謝したいが、やはり現場を知らない人が採点するより、現場の先生が採点していただけるほうがよい。 作業量は多くなってしまいが、この作業も子どもたちにとって必要なことである。 県に対しては、子どもたちの都合を第一に考え、スケジュールの見直し等について要望してもよいのではないかと思う。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> 先生の帰りは毎日遅くなっている。また、土日は部活もある。 学校の先生の家族の負担も大きくなっていると思う。 このようなことから、夏休みに採点できるようになると平時の負担は減ると思う。 昨年度の調査結果を見ているが、その検証についてはどのように行っているのか。

教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度は 11 月に各学校に取りまとめたものである。 ・ この内容をもとに今年の自校採点の結果の現状を取りまとめ 1 回目の検証を行っている。 ・ また、8 月の結果をもとに、2 回目の検証をし、新たな課題を公表する方向になる。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公表した課題に対してどのような結果がでたかという検証はどこで行うのか。1 年では結果は出ないと思う。 ・ また、調査は 6 年生が対象となると思うが、6 年生の結果をもとに全学年の課題を抽出するということになるが、これは非常に難しいことであると考ええる。 ・ それだけに、調査で出てきた課題に対して、答えを出せるのはいつになるのか。 ・ 書いているだけでは意味がないと思うが、ここに書いてあることをすべて取り組むことは大変なことだと思う。 ・ 全国的に取り組んでいるのか。
教育委員会事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ やっている市町もある。当市もその 1 つである。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭学習の充実というところもある。とても難しいが、この検証が出来れば、全国上位になるかもしれない。 ・ 是非、親には目を通してもらいたい。
委 員 A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育委員会の事務局も取りまとめ等たいへん忙しいと思うが、現場の先生は、さらに忙しい状況である。
教 育 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結果が出た段階で、再度調査の再点検をされた学校がある。 ・ 結果、具体的に指導が弱かった部分が出てきたということであり、このことを学校長や教育委員の前で発表いただいた。 ・ これが、きっかけとなり各校で再分析を行っていくこととなり、調査対象の学年だけでなく他学年の指導の見直しにもつながっている。 ・ このことは自校分析がもたらしたよい結果であると思う。
市 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それだけに検証も行っていたきたい。検証することではっきりと成果が見られると思う。 ・ その他の委員の方々のご意見はないか。公表についてどのように考えるかをまとめていきたい。
委 員 B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私が委員に就任した時と雰囲気は変わってきている。 ・ 当時は、調査そのものに対して否定的であり、ダメな理由を正当化される方向で話されていた。 ・ しかし、学校内に数字を公表することで、様々な課題がわかってきたと思うし、分析できたと思う。 ・ 現在の数字の出し方を継続的に行うことで、長期的な観点で確認していく必要がある。 ・ 当市は良い方向にすすんでいると考えている。

- | | |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 市 長 | ・ 資料 3 の例については、文科省の指導か。 |
| 教育委員会事務局 | ・ 当市が検討した一例である。 |
| 市 長 | ・ 資料 3 をもとに、公表しようと考えているのか。 |
| 教育委員会事務局 | ・ 数値を公表するとした場合はこの事例に基づいたものになるかと考えていたものであるが、事務局からは昨年度と同様の方向で検討しているものであり、数値について公表しないということが教育委員会としての総意である。 |
| 市 長 | ・ 資料 3 についてはどのような位置づけか。 |
| 教育委員会事務局 | ・ 出す場合について意見交換することも考えられたため資料として提供したものであり、あくまで事例である。 |
| 市 長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 市全体の数値は出す必要があるのではないか。 ・ 当市の位置づけをわかるようにしておく必要があると思う。 |
| 教育委員会事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・ これをこの会議で話していただきたいと思っていたが、教育委員会で協議した結果は、出さない方向になった。 ・ 現状も当市の数値は出していない。 |
| 委 員 A | ・ 現状は、資料 4 のグラフを出しているだけであるが、数値までは出していない。ただ、位置づけはわかるようになっている。 |
| 市 長 | ・ ここまで公開しておれば問題ないと思う。 |
| 市 長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ここまでの意見を確認しておく。 ・ 出す場合を想定して資料 3 を提示いただいたが、教育委員会の総意としては、昨年度と同様の方法、つまり数値は出さないということである。 ・ 新たな項目としては、去年は課題だけであったものが、成果も入っていくということである。 |
| 教育委員会事務局 | ・ 平成 26 年度までは学校別の課題までは出していなかった。 |
| 市 長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ここまで出していることだけでもすごいことであると思う。 ・ さらに全市町の数値を出せばさらにわかりやすくなると思うがいかがか。 |
| 教 育 長 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 一番心配しているのは、数値だけを判断されることである。 ・ 数値だけを見て私立や県立中学を目指す人が増えてしまうことにつながることを懸念される。 |
| 市 長 | ・ 教育長からは数値が出てしまうことで外部に人が流れてしまうことを懸念されているということだが、他にいかがか。 |

委員	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数値を出すよりも、資料 4 のグラフのほうがわかりやすく、リアルな評価になっている。ホームページにも公表している。 ・ このことから、本年度も昨年度と同様の方法で進めたい。 ・ 数値を出すと、それだけを見てしまい、肝心なところを見てもらうことができないと思う。 ・ ここまで出している市もないと思う。
市長		<ul style="list-style-type: none"> ・ 棒グラフが国と県で、折れ線グラフが市ということか。 ・ グラフ表記は、すべて統一しておくほうが良いと思う。 ・ 表記を除くと、確かにわかりやすくなっている。
市長		<p>本日の意見をまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度と同様の方法を踏襲し、公表する。 ・ ただし、グラフ表記は統一する。
全 市 員		<ul style="list-style-type: none"> ・ 異議なし
市 務 局		<p>事務連絡を事務局に確認</p> <p>次回の会議は、10月に開催。日程調整の上、通知する。</p>
市長		<p>最後に各委員からの意見を求める。</p>
教 育 長		<ul style="list-style-type: none"> ・ ポケモンGOが配信され、携帯を見ながら町を歩いている方が増えている。 ・ ピークは過ぎたといわれているが、まだまだ増えてくることも考えられる。 ・ 市内の中学生にも波及していると思うが、教育委員会だけで対応できない場合は、この会議を緊急招集させていただくかもしれないので、ご承知おき願いたい。
市長		<p>閉会</p> <p>終了 11時30分</p>